

世田谷区における中小企業の景況

第42回調査実施概要

- 1. 調査時期 : 平成25年1月7日 ~ 1月18日
- 2. 対象期間 : 平成24年10月 ~ 平成24年12月期、及び平成25年1月 ~ 平成25年3月期見通し
- 3. 調査対象 : 支部会員中小企業 (約2,822社)

①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②~④を除く)	資本金3億円以下、または従業員300人以下	③小売業	資本金5千万円以下、または従業員50人以下
②卸売業	資本金1億円以下、または従業員100人以下	④サービス業	資本金5千万円以下、または従業員100人以下

- 4. 調査方法 : 調査票郵送~郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。
- 5. 回収状況 : 合計 356社 (回収率 = 12.0%)

製造業	45社	不動産業	45社	小売業(飲食業含む)	75社
建設業	66社	卸売業	32社	サービス業	93社

概況

<DI(Diffusion Index)とは…> DI (%) = 「良い」「増加」等企業割合 - 「悪い」「減少」等企業割合

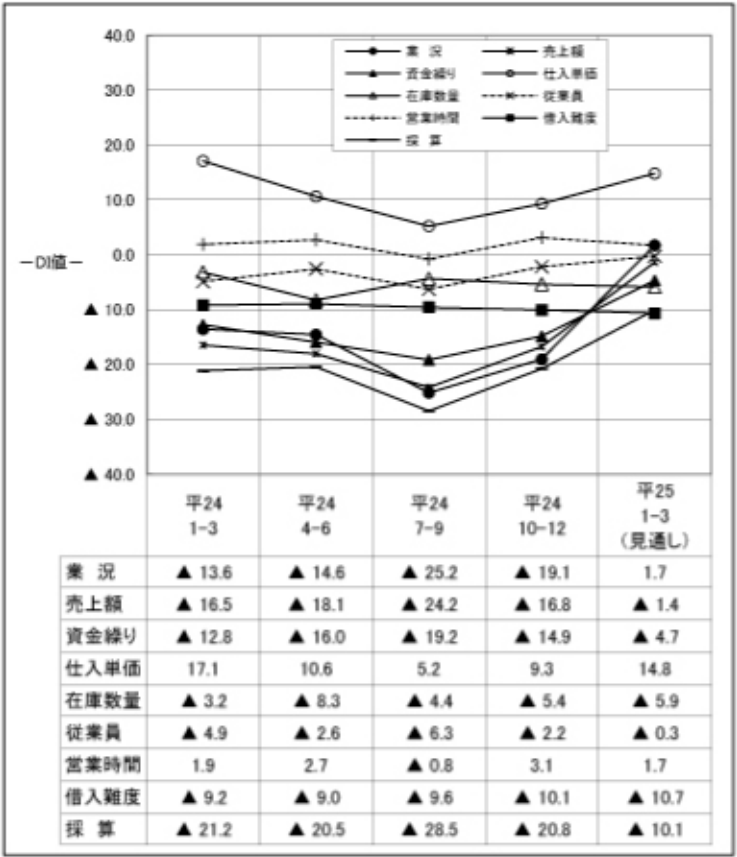
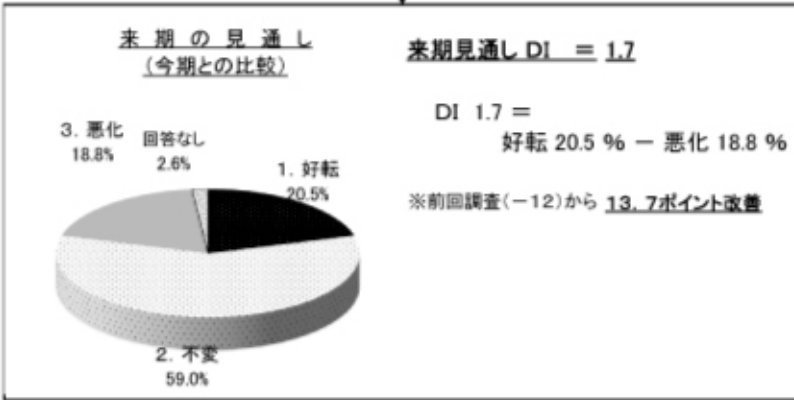
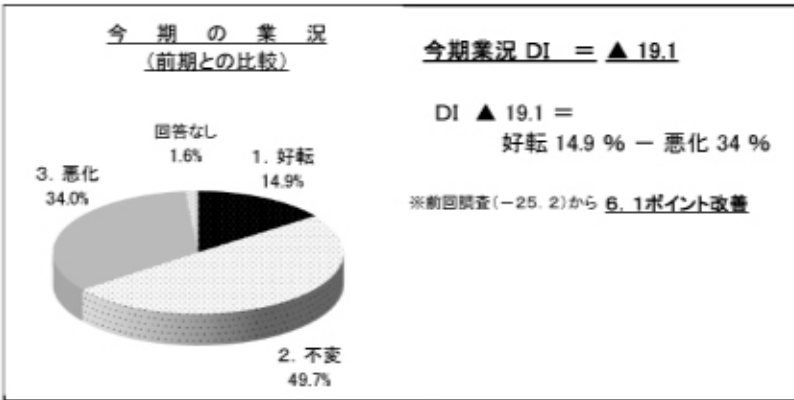
DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」とする企業が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

業況

今期(平成24年10月-12月期実績)の業況DIは▲19.1ポイントで、前期と比較して6.1ポイント悪化幅が縮小した。悪化幅の縮小は3期ぶりとなる。来期の業況見通しDIも、1.7ポイントと、前期と比較して13.7ポイント改善し、H19年7-9月期以来、5年6ヶ月ぶりにプラスに転じた。

主な指標別の傾向

今期は、売上額▲16.8(前期比+7.4)、採算▲20.8(同+7.7)など7指標で悪化幅が縮小、改善した。来期も6指標で悪化幅縮小、好転の見通し。指標別では「借入難度」が今期▲10.1(前期比▲0.5)、来期見通し▲10.7(同▲0.6)ともに悪化幅が拡大している。



主要景況指数表

(注)調査項目: 業況(好転⇔悪化)、売上額(増加⇔減少)、資金繰り(好転⇔悪化)、仕入単価(上昇⇔低下)、在庫数量(増加⇔減少)、従業員(増加⇔減少)、営業時間(延長⇔短縮)、借入難度(容易⇔困難)、採算(好転⇔悪化)

今期の状況 (前期比)

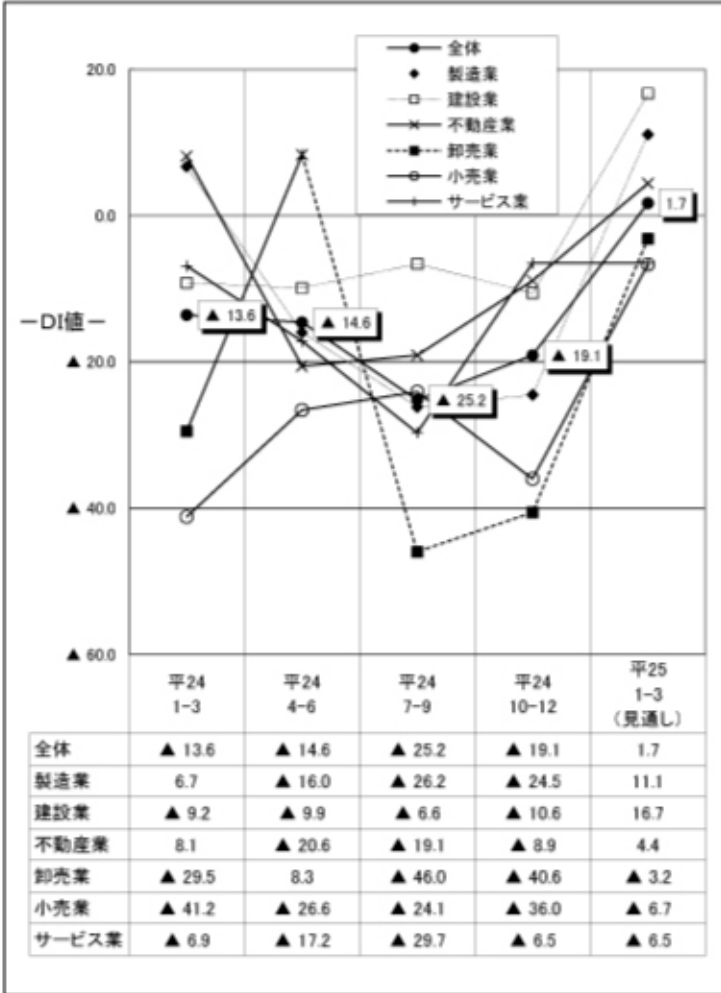
	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲19.1	▲25.8	▲16.8	▲24.4	▲14.9	9.3	▲5.4	▲2.2	3.1	▲10.1	▲20.8
製造業	▲24.5	▲35.5	▲24.4	▲37.8	▲8.9	26.7	0.0	▲11.1	▲6.7	▲8.9	▲24.4
建設業	▲10.6	▲9.0	▲9.1	▲4.5	▲12.1	15.2	▲12.2	▲9.1	3.0	▲1.5	▲15.1
不動産業	▲8.9	▲15.5	▲6.7	▲15.6	▲6.7	▲6.7	▲4.4	▲2.3	6.7	▲8.9	▲15.5
卸売業	▲40.6	▲43.7	▲21.9	▲43.8	▲25.0	21.8	▲9.3	0.0	3.2	▲15.7	▲28.1
小売業	▲36.0	▲41.4	▲30.7	▲34.7	▲29.3	1.3	▲1.3	2.7	▲1.3	▲13.3	▲29.4
サービス業	▲6.5	▲19.4	▲10.7	▲21.5	▲8.6	6.4	▲5.4	2.2	9.6	▲12.9	▲16.1

来期の見通し (当期比)

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	1.7	▲1.4	▲4.7	14.8	▲5.9	▲0.3	1.7	▲10.7	▲10.1
製造業	11.1	13.3	▲4.4	17.8	4.4	0.0	▲2.3	▲2.2	▲11.1
建設業	16.7	7.6	▲1.5	19.7	▲3.0	3.0	4.5	▲10.6	▲3.1
不動産業	4.4	8.9	2.2	2.2	▲8.9	6.7	4.4	▲6.7	▲4.4
卸売業	▲3.2	▲12.5	▲12.5	31.3	▲6.2	3.1	▲3.1	▲18.7	▲9.4
小売業	▲6.7	▲6.7	▲5.4	10.7	▲10.6	▲4.0	▲2.7	▲6.7	▲10.7
サービス業	▲6.5	▲11.8	▲7.5	13.9	▲7.5	▲4.3	5.4	▲17.2	▲17.2

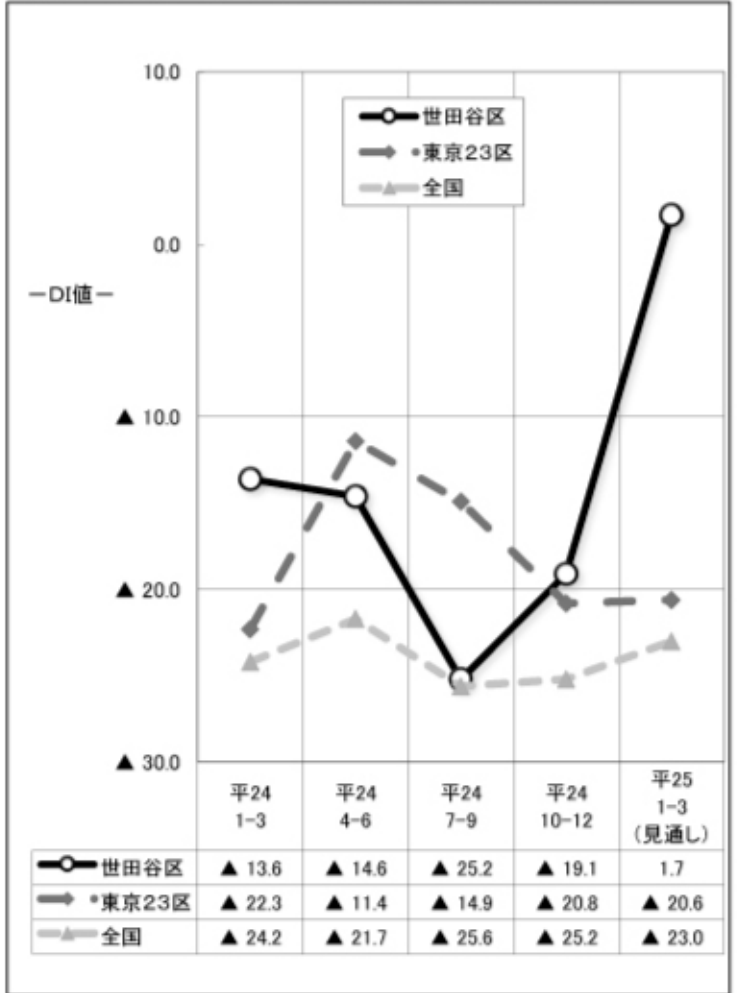
業種別の動向

今期の業種別の業況DIは、「サービス業」▲6.5ポイント（前期比+23.2）など4業種で悪化幅が縮小した。悪化幅が拡大したのは、「建設業」▲10.6（同▲4.0）、「小売業」▲36.0（同▲11.9）。来期は、「サービス業」▲6.5（同±0）を除く全業種で悪化幅縮小、改善の見通し。



東京都・全国との比較

「世田谷区」では▲19.1ポイント（前期比+6.1）と3期ぶりの悪化幅縮小となった。一方、「東京23区」は▲20.8ポイント（前期比▲5.9）と悪化幅が拡大、「全国」では、▲25.2ポイント（同+0.4）と小幅ながら悪化幅が縮小となった。来期は、「世田谷区」、「東京23区」、「全国」ともに悪化幅が縮小、改善する見通し。



※データ参照（データ：業況判断DI前期比）
 東京23区＝「東商けいきょう：業況判断DI」（東京商工会議所）
 全国＝「中小企業景況調査 業況判断DI（前期比季節調整値）」（独立行政法人中小企業基盤整備機構）

経営上の問題点

1位「需要の停滞」33.7%（前期比+1.4ポイント）は、17期連続1位となった。2位「販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難」27.2%（同+1.7）は前回4位から上昇した。前回2位の「購買ニーズの変化への対応」23.9%（同▲3.5）は3位に順位を下げた。6位～8位は、「人件費以外の経費の増加」16.6%、「仕入単価、下請単価の上昇」14.3%、「人件費の増加」12.1%と、経費の増加についての項目が並んだ。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	需要の停滞	120	33.7%	- 1
2	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	97	27.2%	↑ 4
3	新規参入者の進出や同業者の増加	85	23.9%	- 3
3	購買ニーズの変化への対応	85	23.9%	↓ 2
5	大企業(大型店)進出による競争激化	67	18.8%	- 5
6	人件費以外の経費の増加	59	16.6%	↑ 7
7	仕入単価、下請単価の上昇	51	14.3%	↓ 6
8	人件費の増加	43	12.1%	↑ 9
8	取引条件の悪化	43	12.1%	- 8
10	従業員の確保難	42	11.8%	↑ 11
11	生産設備の不足・老朽化	28	7.9%	↑ 14
11	代金回収の悪化	28	7.9%	↑ 13
13	購買力の他地域への流出	27	7.6%	↓ 10
14	事業資金の借入難	26	7.3%	↓ 11
15	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	19	5.3%	- 15
16	金利負担の増加	17	4.8%	↑ 18
17	その他	12	3.4%	- 17
18	在庫の過剰	10	2.8%	↓ 16
19	在庫の不足	8	2.2%	- 19
20	生産設備の過剰	3	0.8%	- 20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。